

平成28年度八幡平市芸術祭



1 発表で一人3役をこなした畠山垂岐都君(田頭小6年)田頭田植踊。



2



3

舞台発表

市芸術祭が10月29日から30日までの2日間にわたり、西根地区体育館と市民センターの2会場で開催されました。29日には、西根地区体育館で開幕式が開かれ、西根民謡好成会が特別出演で登場。民謡を披露して、開幕に花を添えました。西根地区市民センターでは、音楽部門の舞台発表が行われ、特別出演として柴田泰孝さんがミュージカル音楽などを歌唱し、歌声を響かせました。また、地元の中・高校生吹奏楽部やコーラス団体など8演目の発表が行われ、日頃の練習成果を披露しました。

30日には演芸部門の舞台発表が行われました。地元の郷土芸能や歌謡・民謡など17演目の発表が行われ、勇壮な舞いや華麗な踊りを披露し、多くの観客が見入りました。



4



5



6

1_発表で一人3役をこなした畠山垂岐都君(田頭小6年)田頭田植踊。2_開幕式特別出演で南部俵づみ歌などを披露した西根民謡好成会。3_ジャズに挑戦し観客を魅了した平館高校吹奏楽部。4_東日本大震災岩手オリジナル復興支援曲「ふるさとの風」を特別出演の柴田泰孝さんと市内コーラス団体が合唱し、歌声を響かせました。5_勇壮な太鼓と華麗な踊りで会場を沸かせた大更さんさ踊りサークル。6_観客の笑いをとりながら民謡などを披露した田山会。

参加者にインタビュー

芸術祭に出演された団体の代表者から、参加した感想や普段の練習、活動などを伺いました。

1 田頭田植踊保存会



会長 平野康彦さん
=間羽松=

田頭間羽松地区に伝わる「田頭田植踊」。踊り手の後継者不足で一時期は途絶えていた伝統芸能ですが、昭和52年11月の田頭小学校「ふるさとまつり」で復活を果たし、今年で39年目になります。今回、間羽松地区の児童9人で踊りましたが、うち4人が来年小学校を卒業となります。入学する児童もいないため、残念ですが、子どもたちだけで踊るのは今回が最後となりました。今後は保存会で踊りを継承していく予定です。踊った子どもたちは、練習から本番の発表まで本当に良く頑張りました。

2 田山会



副会長の三浦松男さん=石名坂(左)と会長の八幡兼矢さん=新興矢神=

田山会は、会員は20人ほどおり、普段は田山コミュニティセンターを利用して、踊りや民謡、カラオケなどの活動をしています。市内や隣の二戸市の高齢者施設を慰問し、練習の成果を披露しています。市芸術祭の参加は今回で2回目。歌謡や民謡を披露しつつ、観客を笑わせながら楽しく発表することができました。

3 平館高校吹奏楽部



副部長の遠藤愛良さん(2年)【左】と部長の滝川望さん(2年)

普段の練習は和気あいあいと楽しくやっています。部員は1・2年生の5人です。少人数のため編成が合わないこともありますが、1人が複数の楽器をこなすことで、補いながらやっています。今回は、少人数でもかっこよく演奏をしたと思います。ジャズの曲に挑戦しました。アンコール曲の「テキーラ」では、お客さんが声で参加してくれたことにより一体感が生まれ、楽しく演奏することができました。

作品展示部門

西根地区体育館では展示部門として2日間、絵画や書道、写真、生け花などのほか、園児や児童たちの工作などの作品を展示。全部で1035点の丹精込めて仕上げられた作品を、来場者たちは熱心に見入っていました。また、両会場内には、気軽に茶道を体験できるお茶会を設置し、来場者にお茶を振る舞いました。



展示作品に足を止め、その作品に見入る来場者

参加者をより増やして芸術祭を盛り上げたい



市芸術祭実行委員会
実行委員長 伊藤忠男

八幡平市芸術祭が保育所・幼稚園の園児や小・中・高校生の児童生徒、一般市民の参加により盛大に開催でき、大変感謝しております。今年度の芸術祭音楽部門では、ソロボーカリストの柴田泰孝さんを招くことができ、心に響く素晴らしい歌声に参加者に聴いていただくことができました。作品展示部門では、多くの人から作品を展示していただき、たくさんの人に楽しんでもらえたと思います。芸術文化は、まわりの良い刺激を受けながら活動に励むことが大事です。今後も多くの人に来てもらえるよう、出演者や制作者の参加を呼びかけて、盛り上げていきたいです。